

サポ・ちばニュース NO-21 (2023. 6 .30)

特定非営利活動法人消費者市民サポートちば事務局発行



第7回通常総会を開催しました

2023年6月11日(日)、特定非営利活動法人消費者市民サポートちば(以後「サポ・ちば」(愛称))の第7回通常総会を千葉県弁護士会館で開催しました。

今年度は感染症予防の観点から、会場での参加人数を制限しオンラインでの傍聴を併用したハイブリッド形式で開催しました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、司会者・報告者はマスクをはずして発言しました。

総会には、正会員118会員(個人106会員、団体12会員)のうち70会員(本人出席38会員、書面表決書による出席32会員)が出席し、成立しました。



拝師徳彦 理事長

◆理事長あいさつ

拝師徳彦理事長から会員の皆様にむけて、2022年度の活動に対する協力への感謝と23年度の抱負などに関する挨拶がありました。

◆審議事項

◎第1号議案 2022年度事業報告および決算書承認の件



第1号議案を説明する
上山精一副理事長



申し入れ活動を報告する
井原真吾検討委員長

2022年度は、第6回総会で確認された事業計画のもと、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、消費者講座や研修などは少しずつ対面での活動を広げたことを報告しました。

2022年度の申し入れ活動の状況は、情報提供24件、検討事案14件、問い合わせ事案6件、申し入れ事案4件、差止請求0件、終了6件でした。

◎第2号議案 役員の一部選任の件

定款第14条および第16条に基づき、理事1名の提案がありました。

◆審議結果

1号、2号議案についてそれぞれ採決を行い、両議案とも賛成多数で承認されました。

◆報告事項「2023年度事業計画および活動予算書」



議決後に、「2022年度事業計画および活動予算書」について常岡久寿雄副理事長が報告、説明しました。



新たに選任された尼崎理事

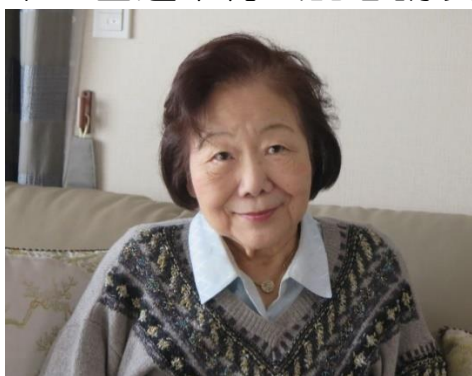
総会の場でアシストチームの活動紹介がありました

前野副理事長からちぼっただよりの発行などで協力されているアシストチームの活動紹介がありました。



左から前野副理事長、君山さん、仲條さん、吉野さん、宮澤さん

第7回通常総会記念講演「高齢者から考える消費者被害と地域見守り」



講師の樋口恵子さん

総会終了後、記念講演として「高齢者から考える消費者被害と地域見守り」と題して評論家で NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事長、東京家政大学名誉教授の樋口恵子さんに講演いただきました。以下は講演の要旨です。

急激な高齢社会を迎えることについては男も女もなく大きな変化に直面しています。いわゆる ICT といわれるインターネット関係が使えなければ情報がきちんと得られないという社会になってくる、女性も上手に適応できるようになっていかなければいけないと思っております。

とにかくお年寄りが増えたわけです。日本は世界一の高齢大国であるということです。

2019年時点で平均寿命は男性が81歳を超え、女性が87歳を超えています。健康寿命は男性が72.68歳、女性が75.38歳となっています。健康寿命については、私はとても大事な項目だと思いますので、もう少しきちんと定義を決めて、聞き取りの際の質問も標準化して、暦年の変化が分かるように高齢化の先進国として、そして統計も得意な特技としている日本は高齢者の定義としてリーダーシップをとっていただきたいと心から願っております。

比較をするときに一つの基準となるのは平均寿命と高齢化率です。日本は直近の高齢化率29.1%です。やっぱり高齢化比率が一番の問題でしょうね。

1950（昭和25）年4.9%だった高齢化率が2022年には29.1%で断トツの1位です。高齢化率も平均寿命も世界一、もう一つは、いったいどれくらいの速度でこういう変化が起こったか、倍化期間といいますが高齢者が倍になるのに

何年要したか、国連の基準で高齢化率が7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会、7%から14%になる速さも日本が世界一でして、いつ高齢化率が30%を超えるか固唾を飲んでみております。

平均寿命と健康寿命

・2019年時点で

	平均寿命	健康寿命	その差
男性	81.41歳	72.68歳	8.73歳
女性	87.45歳	75.38歳	12.07歳

高齢化率

・総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、1950年（4.9%）以降一貫して上昇が続いており1985年に10%、2005年に20%を超え、

世界1位	2022年は	29.1%となりました。
2位	イタリア	24.1%
3位	フィンランド	23.3%

聞くところでは強制的に一人っ子政策をとってきた中国の方がいくらか倍化期間が日本を上回ったようです。この問題では日本は世界の関心の的として、どういう苦勞をしているのか、介護保険ってどんなもの？と私が外国に行くとき質問攻めに会います。中国はこれから世界で有数の少子高齢社会を中国は中国なりの工夫をしながら乗り越えていかなければなりません。

世界の平和に日本が貢献できることは、世界に先駆けて超高齢社会になって日本が成し遂げたさまざまな実績をあまり落とさずに、高齢化の動きを緩めることができるかということです。

高齢男女人口比

	75歳以上	85歳以上	90歳以上	95歳以上	100歳以上
男	39.5	32.1	26.0	19.0	11.1%
女	60.5	67.9	74.0	81.1	88.9%

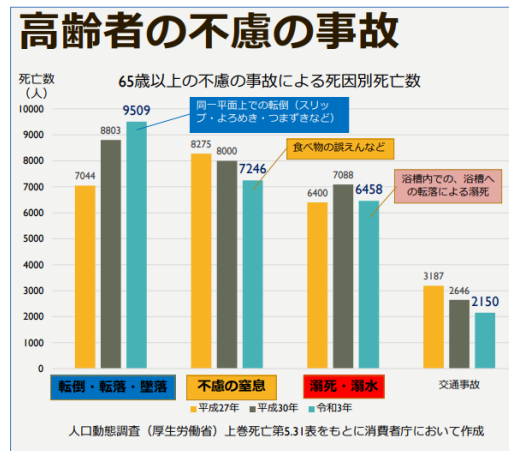
高齢社会は女性の問題でもあります。高齢男女人口比をみますと75歳でみると約4割だった男性が100歳以上でとると1割そこそこに沈んでしまうのです。85歳で女性は男性の2倍いることになります。100歳以上では男性は1割ちょっとで女性が9割、数の上で断然、女性優位の社会になるわけです。

高齢者に対するケア、介護の政策として、日本は2000年から介護保険制度を取り入れました。介護保険制度は、介護の役割を一方的に家制度の中で負わされてきた女性たちが一生懸命協力して作り上げてきた制度だと思っています。介護保険があったおかげで定年まで働き続けることができたという中高年の女性にどれだけ会ったことか。仮に家族がいなくても近所の方が助け合うように、そして家族がいなければ対価は支払うわけですが、保険料を払って介護保険を利用する。

高齢世帯の変化

	2000年	2019年
①単独世帯	19.7%	28.8%
②高齢夫婦のみ	27.1%	32.3%
①+②	46.8%	61.1%
③高齢者と独身の子	14.5%	20.0%
①+②+③合計	61.3%	81.1%
④三世帯世帯	26.5%	9.4%

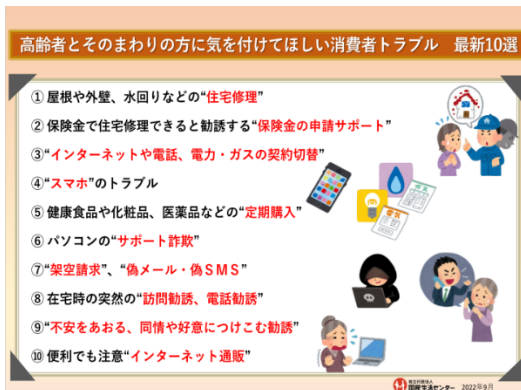
これからの高齢社会のキーワードの一つは、地域全体の中で助けあう。遠くの親戚より近くの他人、新しい助け合い社会を日本中に、介護保険をてこにしながら広げようではないか、今日一番申し上げたいことの一つです。というのは高齢世帯の形が変わってしまったのです。世帯の中で一人でも65歳以上の方がいる世帯を高齢世帯といいます。高齢世帯がこの20年の間にその内訳がどう変化したか、単独世帯がまず増えて、高齢夫婦のみもかなりな増え方をして、この二つを合わせると2000年には半数までいかなかったのが、2019年には61.1%と6割を超える状況になってしまったのです。一方、三世帯世帯は2000年には26.5%、4軒に1件あったものが2019年には9.4%、3分の1近くまで減ってしまっているのですね。



消費者問題としての高齢者の問題というのは、高齢者が安全に、適切な物資を手に入れて、事故にあわず被害にあわず、暮らしていけるかという問題です。子供がそばにいないということは駆けつけていく人が少なくなる社会といえるわけです。高齢者の不慮の事故はとても多いです。

交通事故で亡くなった人が2150人に対して、お風呂で溺死が6458人で交通事故の3倍、転倒転落は1万人近い9509人、同一平面状での転倒です。高齢者はふわぁっと転んでも骨折しますので、周りの人が注意し合って、情報を寄せ合って事故を防いでいただきたいと思います。

不慮の事故もさることながら、私も昨日、2つくらい断ったかな、住宅の修理をしないか、いろんな契約の切り替えなどの電話がかかってくるので、よくご家族で話し合ってください。こういう時にはこう答えようとか相談されると良いと思います。それから近所の派出所のお巡りさんには前を通るたびに声をかけるようにしています。私自身が昨年、転倒したときの経験からご近所と親しい付き合いをしておいて本当に良かったと思いまし



ほしいなと心から思います。

財布を守る秘訣	
さ	誘い文句にのせられないで
い	家の戸、財布にしっかり鍵かけて
ふ	不審な人には注意して
を	お断り上手になりましょう
ま	まずは、家族や消費生活センターに相談
も	もしもの時に備えて、成年後見制度を利用
る	留守番、一人暮らしもこれで安心

国民生活センターHPより

にお世話になってから、ますます住み心地が良くなりました。あまり億劫がらず、頼み頼まれる間柄としてネットワークができていくことが大事なのです。ご近所お隣さんとの良い・心強い付き合い方をぜひ作り上げていただきたい。これは地域社会の住民自らの実力だと思います。

それと行政の上手な利用の仕方がとても大切だと思います。今、医療保険、介護保険、さまざまな市民同士のたすけあいのグループがありますよね。生活協同組合の共同購入など、いろんなご近所づきあいの連絡先を冷蔵庫の脇に貼るとか、しっかり書きつけておいていただきたい。

消費者被害の相談窓口として消費生活センターや成年後見制度を検討する時の法律の専門家、役所の生活相談でも人生案内でもいい、私たちは行政サービスを楽しむために市民税を払っているわけですから役所とも仲良くなっておく、まず役所に行って相談機関をさがすことです。

シルバー人材センターも地域の助け合い制度です。時給は高くはありませんが、お金をもらって地域の人に喜ばれる、ご近所が顔を覚えてくれますから、とてもいいのではないのでしょうか。

広く市民が参加できる、できれば無料か廉価でいろんな学習の機会を行政や市民団体が提供しています。今日もその一つです。仲間をさそいあって気軽に参加することが大切です。

これからの人生は、特に高齢になってからは消費者であると同時に医療保険や介護保険、年金保険の被保険者であるわけで、社会福祉制度、社会保障制度を上手に利用しない手はありません。ご近所へのあいさつをするのと同じように近くの行政の窓口について消費者問題、警備、法律相談、教育相談などの窓口に行って利用の仕方を教わってほしいと思います。行政が愛想のよい、受け皿の大きい行政になってほしいと思いますが、同時に頼み上手、相談上手の「相談力」といったらいいのでしょうか。市民の皆様も相談力の高い住民になって、助け合って「人生100年時代」を過ごそうではありませんか。

講演のあと、日野副理事長が進行役となって、講演についての感想を交流するとともに、WEB参加の皆さんも含めてサポちばの活動について、全員で意見交換をしました。

感想には「講演の冒頭から引き込まれるお話でした。樋口先生から、いつも好奇心を持ち、周りの人とコミュニケーションを取る、相談する、自分でも情報収集をする大切さを学びました」「先人のご苦勞が印象に残りました。また私たちは相談者にとって相談しやすい窓口になることが重要だと再認識しました」といった感想が寄せられました。

た。あんまり立ち入ってはいけなけれど、いざというときにはお願いできる関係、近所の人と顔見知りになっておくということ、私は今の日本の社会を「ファミレス社会」と言っております。「ファミ」は家族の「ファミ」です。「レス」は「less」、少なくなる社会です。家族が少なくなってしまって、頼れる親戚も近所にいない人が圧倒的多数、だとしたらどうやって助け合ったらいいんですか？私はやっぱり民生委員さんを中心に、戦時中とは違った意味で隣り近所が緊急時に知らせ合う。行政が中心となって、高齢世帯の駆け込み先を第三者にもわかるようにしておいて